

自分のペースで落ち着いて学べる校内別室の整備

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校入学から間もなく、周囲の落ち着かない生徒の言動にストレスを感じ、頭痛や腹痛などを訴えて欠席が増えた。真面目で何事もきちんとやり遂げたい性格で、学習にも意欲が高く、欠席が長引くことを心配する保護者の相談を受け、校内別室への登校を開始した。



具体的な取組

○校内別室の設置

玄関横の地域連携室に、ソファや机、観葉植物などを配置し、緊張感なく過ごせる雰囲気のある校内別室として整備した。また、不登校対応巡回教員が配置されたことにより、校内別室担当教員の勤務がない日に不登校巡回教員が入り、校内別室に教員が常駐する体制になった。生徒は通えるときに登校し、生活するようになった。生徒の登校状況を職員室のホワイトボードを使って共有するようになった。



○教室の授業をリモートで受ける

校内別室では、教室の授業をリモートで受けられるようにした。教室復帰のきっかけにもなるよう、所属するクラスの授業に参加できるようにし、課題なども取り組んで提出できるようにした。

○他者との関わり方を学ぶ

カードゲームやボードゲームを設置し、自由に遊ぶことができるようにした。言葉によるコミュニケーションが苦手な生徒も、ゲームを通して別室に通う他の生徒と交流することができるようになった。

○校内委員会での情報共有

週1回実施する校内委員会に不登校対応巡回教員が参加し、校内別室での様子だけではなく、当該生徒の学級における状況や周辺の生徒の状況を校内で共有し、多面的多角的に状況把握を行った。

成果

当該生徒は、校内別室をベースにしてほとんど休まず別室登校を行うことができた。また、校内別室担当教員や巡回教員の働きかけにより、一部の教科は教室で受ける意欲を示すなどの変容が見られた。

課題

新たに校内別室の利用生徒が増えると人間関係が変化し、他の生徒にストレスがかかる。誰もが気持ちよく過ごせる緩やかなルールの設定と秩序の維持が課題である。

別室登校生徒の支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生に進級する際に私立中学校から転入し、4 月上旬は通常どおり登校していた。4 月下旬からコミュニケーションをとるのが苦手、集団になじめないなどの理由により、教室に入ることを拒むようになり、欠席が目立った。5 月から欠席が続き、S C と面談をしたり、区の教育相談を利用したりして、週 1、2 日今年度開設された別室登校をした。

具体的な取組

○校内別室の利用

校内別室では、1 人で学習する時間と集団でコミュニケーションをとる時間を確保している。コミュニケーションをとる時間では校内別室を利用する生徒と会話をしたり、カードゲームなどをしたりして、ソーシャルスキルを高めている。



○S C の活用

2 年生のときには S C を定期的にご利用したが、3 年生になってからは必要な時に利用している。

○定期考査を別室で受験

校内別室を利用する生徒で定期考査を受けることを希望する生徒は、別室で受験できるようにしている。

○行事の準備等で他の生徒と交流

修学旅行には参加したいという希望があったため、修学旅行の準備をする総合の時間や学活は教室に入り、他の生徒とコミュニケーションを取るようにした。

成果

修学旅行に参加することができた。
校内別室と区の教育相談を利用することで、欠席日数は月 1、2 日になった。

課題

ほぼ毎日出席しているが、教室復帰は、中学校在学中は難しい。学習の継続と集団への適応のための学習を今後の課題とする。

巡回教員の校内別室における不登校生徒対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は、騒がしい環境が苦手で、教室の集団の中に長時間いることがつらく、精神的な不安を感じていた。現在は、校内別室で過ごすようになっている。

具体的な取組

○安心できる居場所づくり

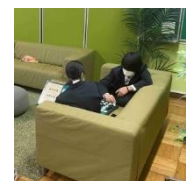
不登校対応巡回教員を始め、校内別室指導支援員、別室担当の非常勤教員が週5日間、確実に在室することにより、生徒がどんな時間でも登校できるようにしている。担当者は、それぞれの生徒の好きなこと等を話題にして会話を多くするようにしている。

また、ぬいぐるみを置き不安の強い生徒の心の安定を図っている。



○トランプ等での交流でのコミュニケーション力の向上

コミュニケーションが苦手な生徒が多いため、カードゲームやオセロ等の他者と関わるゲームを意図的に行っている。初めのうちは、教師側から提案していたが、生徒同士で声をかけ合い、交流するようになった。



○個に応じた学習支援

校内別室に登校する生徒は、教室で授業を受けていない分、学習面での遅れがある。特に、小学校の内容が未定着の生徒が多いので、A Iドリルをするだけでなく、担当教員がホワイトボードを活用しながら個々に学習をサポートしている。

○メリハリのある生活

メリハリのある生活をさせるために、基本的な一日の流れを決めた。

1、3、5 時間目⇒学習の時間

2、4、6 時間目⇒フリーの時間

一日の流れを決めたことで、ゲーム的な活動ばかりではなく、学習に集中して取り組むようにもなった。



成果

4 月当初、校内別室への登校が 1～3 日間程度であった生徒がほとんどであったが、12 月現在、毎日登校する生徒が 8 人、自分の好きな教科の授業に参加するようになった生徒が 4 人となった。

課題

4 月に校内別室を開設し、手探りでの運営が続いている。今後、先を見通した校内別室の運営（生徒の生きる力の向上等、生徒への支援）が課題である。

校内体制の充実による別室指導について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学時には通常通り登校していたが、夏休み明けから欠席が目立つようになり、教室に入ることを拒むようになり、9月から別室登校になった。



具体的な取組

○別室の環境の整備（パーティションの設置）

一人で集中できる環境作りのため、部屋にパーティションを設置した。

別室で授業を受ける生徒が増えた時にもパーティションを活用できるようにしている。

○振り返るためのシートの作成

当日の予定を自分で考えて書き込むとともに、一日を振り返ることができるワークシートを作成し、活用している。担任や別室担当の職員がワークシートを確認し、指導に生かすことができている

入室時刻、退出時刻をワークシートに記入させ、生徒の動静を共有している。

○校内の組織連携

週1回の教育相談委員会では、SCやSSWも参加し、各学年の不登校生徒の状況を共有し、支援方法を検討する。また、各学年に教育相談担当を位置付け、SCとの調整など組織的な支援に当たっている。

○デジタル機器の活用

AIドリルを活用して、タブレットで主体的に学習ができるようにしている。担当教員が生徒に合った内容を提供し、学習進度を把握して、次の課題を提供している。

成果

2人程度の生徒が別室を使用できることになり、登校回数が増えている。

別室を利用して、小集団の中で過ごせることができるようになった。

課題

学習への意欲が乏しい生徒がいる。

別室利用は出席になるが、利用時間が短い生徒がいる。

少人数で関わることができる居場所を活用した支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 2 年生で発達面に起因する特性により、友達関係でトラブルが起きた際に柔軟に対応することができない様子が多く見られた。友達と関わることへの不安を解消することが安心して登校できるように必要である。

具体的な取組

○校内別室の活用

自分のペースで学校生活ができるように居場所を確保することで、安心して登校できるようにした。

生徒の昇降口と異なる出入り口を設けることで、他の生徒に見られることなく登下校できるようにした。



○コミュニケーショントレーニングの実践

相手の気持ちを受け入れながら自分の思いを伝えられるように、特別支援教室の担当者が生徒の状況に応じてトレーニング等を行った。

進学に必要な技能等の練習も行い、作業の正確さや継続して取り組む力を伸ばせるようにした。

○SCによるカウンセリング

不安や状況を確認することを目的に生徒の状況に応じて行った。

対人トラブルの対処方法について具体的な方法を一緒に考える機会を設け、不安を減らすようにした。

○小集団活動の時間の設定

校内別室を利用する複数の生徒と共に、卓球やカードゲーム等のレクリエーションや、支援員と共に校内や学校図書館の整備等の活動を行うなど、他の生徒等と関わりをもたせるようにした。

成果

4～2月は無 1、2 日程度の登校であったが、校内別室支援開始後の 3 月からは無 3 日程度校内別室に登校できるようになった。

友達と関わることを避けていたが、校内別室を利用する複数の生徒と相手の気持ちを考えて話をしたり、一緒に行動したりできるようになった。

課題

登校時刻を安定させるために生活リズムを確立させる。担任や学年をサポートできる校内体制を更に充実させ、家庭と連携して改善が図れるようにしていく。